

わくわくプロジェクト令和8年度提案事業
公開プレゼンテーション 令和8年2月27日



「戦争と平和」の歴史発掘・発信事業 —水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を未来へ—

提案団体：拓友会・水戸まちづくりの会

担当課：歴史文化財課（内原郷土史義勇軍資料館）

プレゼンの流れ ※ () 内がプレゼンター

- 1 提案団体の紹介 (拓友会 佐藤)
- 2 水戸市の課題 (水戸まちづくりの会 鈴木)
- 3 プロジェクトの概要 (水戸まちづくりの会 鈴木)

通り

1 提案団体の紹介



拓友会

会員26名

1 提案団体の紹介

- 戦後、水戸南飛行場跡地に開拓入植した43戸で結成→活動歴**78年**！
- 拓友会は全国各地で組織→戦後80年を経てほぼ消滅→**市内唯一の希少組織**



入植記念写真（昭和23年／地域住民提供）

水戸まちづくりの会

会員19名

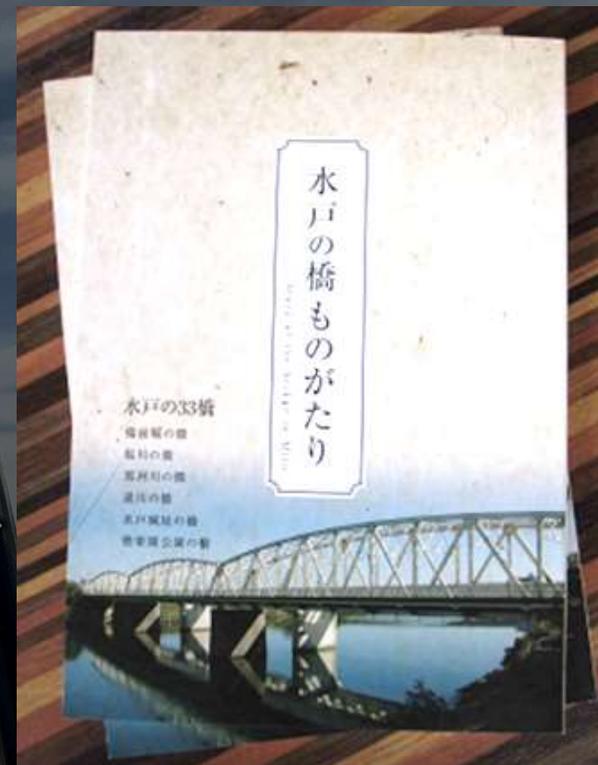
1 提案団体の紹介

➤ 水戸の「キラリと光る」歴史を掘り起こし、まちづくりに活かすのが得意！

➤ 本の出版、講演会、まち歩きイベントなど、多数の実績あり

水戸まちづくりの会刊行
『水戸の橋ものがたり』▶

平成24年度まちづくりグリーン
リボン賞受賞
(水戸の橋ものがたり制作事業)



拓友会×水戸まちづくりの会

1 提案団体の紹介

存在自体が文化財級の老舗市民団体

歴史発掘・発信のセミプロ市民団体

拓友会

水戸まちづくりの会

最強タッグによる
新プロジェクトの
ご提案です！



2 水戸市の課題

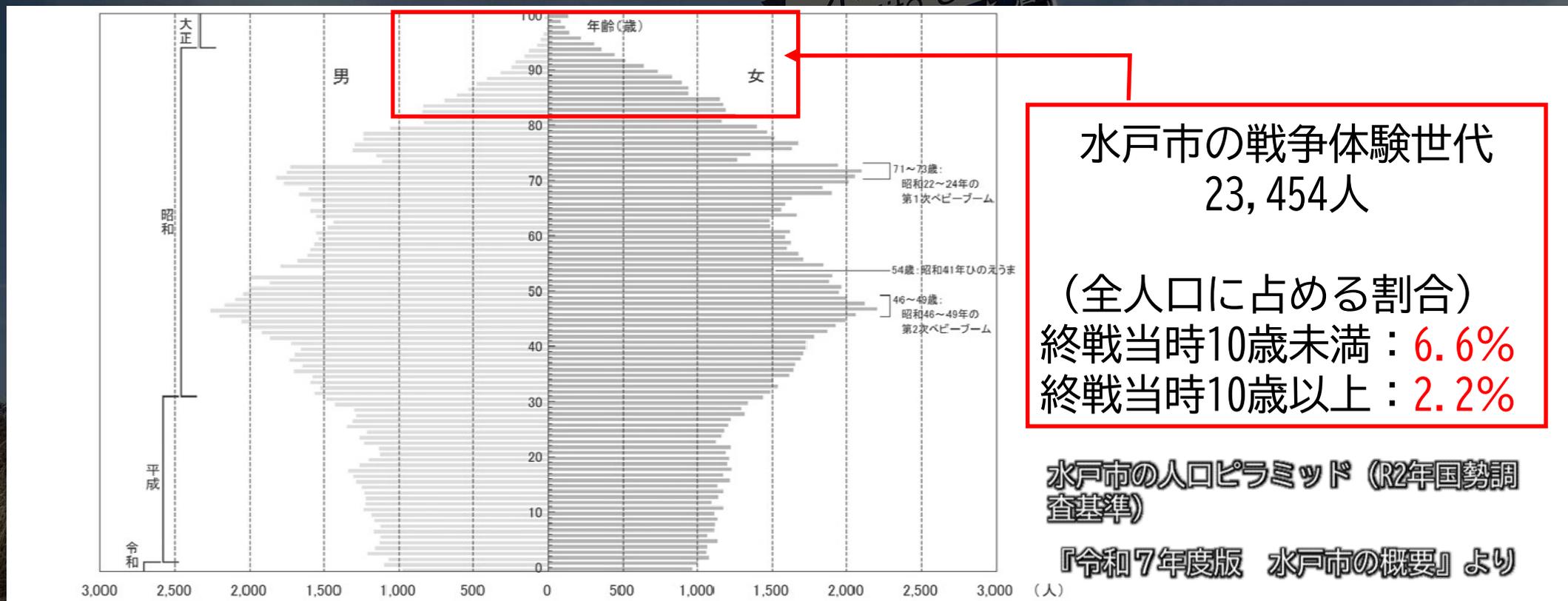


戦争体験者の講演（アーカイブ「わたしは戦争を忘れない」／市立博物館提供）

戦争の記憶をどう伝えるか？

2 水戸市の課題

➤ 令和8年は戦後81年・昭和100年



戦争の記憶をどう伝えるか？

2 水戸市の課題

- 今後、失われつつある戦争の記憶をいかに発掘・発信し、未来に継承していくかが、水戸市の抱える重要な課題

水戸南飛行場
Mito South Airfield St.
* 酒門町

戦争の記憶をどう伝えるか？

2 水戸市の課題

戦争の記憶を継承し、平和の尊さを伝えていく必要があります。

⑥ 平和事業について

本市は、近代に陸軍衛戍や満蒙開拓青少年義勇軍国内訓練所が設置され、多くの人々が海を渡って戦争に関わるとともに、水戸空襲によって市街地の大半が焼失するなど、アジア・太平洋戦争の深い爪痕を残すまちです。

本市では、こうした戦争の悲惨さを後世に伝えるため、戦争経験者による戦争語り部を中心に平和事業を進めてきました。しかし、戦後80年以上が経過し、戦争の記憶が加速度的に失われつつあり、戦争経験者を中心とした平和事業の転換が求められています。

そのため、戦争経験者の証言のアーカイブや戦後世代による語り手の育成など、戦争の記憶を継承する事業を展開し、恒久的に平和の尊さを伝えていく必要があります。

「水戸市文化財保存活用地域計画」（令和7年12月 文化庁認定）より抜すい



戦争の記憶をどう伝えるか？

2 水戸市の課題



| | | |
|---|--------------|---|
| 6 | 若い世代の平和意識の醸成 | <p>終戦から80年が経過し、戦争体験者の減少が進み、戦争・被爆体験の風化が懸念されている。本市では、「ぴ～すプロジェクト」をはじめとする平和事業を展開し、市民の平和への意識の醸成に努めているものの、若い世代の自発的な活動が少なくなっている状況である。</p> <p>平和意識のさらなる醸成を図るため、平和作文コンクールやぴ～すプロジェクトの充実など、様々な機会を捉えて平和活動により一層取り組み、悲惨な戦争の記憶を風化させず、世界における恒久平和を希求する心を若い世代に引き継いでいく必要がある。</p> |
| | [文化交流課] | <ul style="list-style-type: none">・これまでと異なる世代を対象とした平和意識醸成のアプローチの実施・市民活動団体が主体的に行う平和活動について、広報活動等を通じた支援 |

わくわくプロジェクト令和8年度募集要項より抜すい

3 プロジェクトの 概要



「水戸南飛行場通り」
拓友会ははじめ4市民団体の署名活動により、R6年度
に市が道路愛称設定（幹線市道11号線／全長約1,800m）

プロジェクト名

「戦争と平和」の歴史発掘・発信事業
—水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を未来へ—

水戸南飛行場
Mito South Airfield
* 酒門町

① 水戸南飛行場と戦後開拓とは？

- 昭和15-20年に運営された陸軍飛行場
- 陸軍における航空通信学校の中心的施設
- 戦後は開拓地に充てられ、国内の農村や満蒙開拓からの引揚者が入植

① 水戸南飛行場と戦後開拓とは？

吉田・酒門・住吉地区には、
周囲から浮き出るような
基盤の目の街区が
存在



① 水戸南飛行場と戦後開拓とは？

飛行場の範囲が
街区として
ほぼ**完全に**残る

東西約2.5km
南北約1.4km



① 水戸南飛行場と戦後開拓とは？

さらに開拓者が今でも飛行場跡地に居住し、
往時の記憶を伝える貴重な資料が残っている



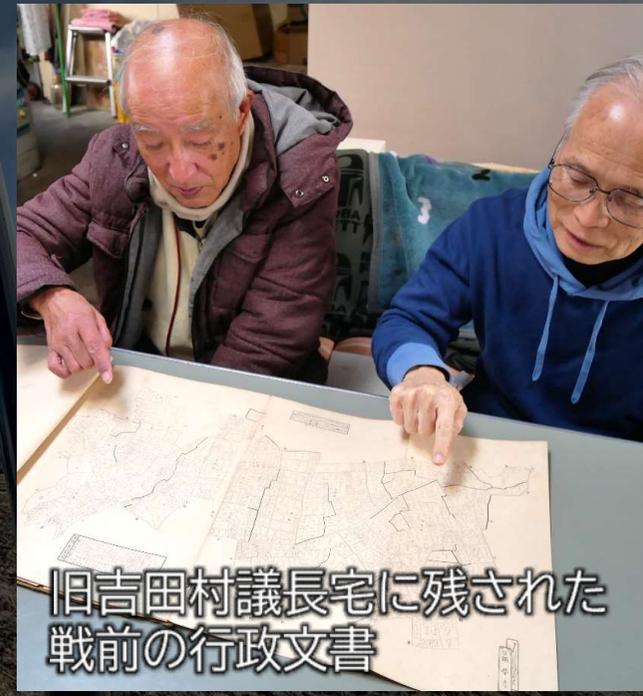
開拓者宅に残る
石油ランプ



開拓団の共同墓地に
刻まれた開拓の記録



陸軍通信学校の顕彰碑
「平和の礎」



旧吉田村議長宅に残された
戦前の行政文書

② 待ったなしの現状

- 水戸南飛行場跡と戦後開拓の歴史は、多くの市民は知らない
- 開拓者の世代交代が進み、開拓一世は3名のみ

② 待ったなしの現状

3 プロジェクトの概要

当時の記憶を発掘し、記録化
していくための
時間的余裕は全くない

水戸南飛行場跡
Mito South Airfield St.
*酒門町

③ 事業の目的

内原郷土史義勇軍資料館の技術協力のもと、
水戸南飛行場と戦後開拓の歴史を
発掘し、記録化し、発信する



文化財行政及び平和行政が抱える
市の課題解決につなげるとともに、
先駆的取組として、資料館と連携し
水戸市初の市民協働型企画展を開催

④ 事業の内容

3 プロジェクトの概要

(1) 飛行場跡地のフィールド調査 予算額26千円



(2) 企画展「水戸南飛行場と戦後開拓」(仮題)の開催 予算額1,764千円(内わくプロ264千円)

会場：内原郷土史義勇軍資料館 会期：令和9年1月～3月
主催：義勇軍資料館、拓友会、水戸まちづくりの会
後援：吉田地区自治実践会、ふるさと酒門をつくる会、
吉沢地区自治連合会



内原郷土史義勇軍資料館

④ 事業の内容

3 プロジェクトの概要

(3) 講演会の開催

予算額30千円



戦争遺跡講演会の例



戦争遺跡
ツアーの例

(4) 現地散策コースの開設 & ツアーの開催

予算額
240千円

現地散策コースをただいま立案中！
注目ポイント（8か所程度）に解説板を設置します ▶



私たちは、

こんなすごい歴史が
水戸にあったのか！

と思われるような、市民の心に刺さる
史実を発掘・発信し、
戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えていきます！

